

SAGA na RINGYOU.

VOL. 658

Issue 2021.01.29

佐賀の林業



豊かな自然を未来へつなぐ森川海人っ協定締結式

～宝の海を守るための漁協の山づくり～

Introduction



表紙の紹介

豊かな自然を未来へつなぐ森川海人っ
協定締結式（令和2年10月25日）

佐賀県と佐賀県有明海漁業協同組合に
よる「森川海人っ協定」を締結しました。

この協定には、森林環境保全活動に関する
こと、森林環境保全活動の普及啓発に
関すること、「森川海人っ（もりかわかい
とっ）プロジェクト」の促進に関する事
などが盛り込まれており、協定期間は令
和2年度から令和15年度までの14年
間となっています。また、協定箇所とな
っている「漁協の山」は、佐賀市富士町に
ある北山湖の西側に位置し、森林面積は
約2.7ヘクタールとなっています。

今回の協定締結式には、佐賀県有明
海漁業協同組合の皆様のほか、森の代表
としてNPO法人みんなの森プロジェクト
の吉村剛（たけし）理事長、川の代表
として縫ノ池湧水会の赤坂宗昭（むねあ
き）事務局長にも立会者としてご参加い
ただきました。

今後もこのような取組を継続し、企業
や団体等を主体とした森づくりをさらに
広げていきたいと考えています。

目次

林政だより

- 03 森川海人っ協定締結式を開催しました
- 04 治山・林道コンクールを開催しました
- 05 搬出間伐の経費への高上げ支援
- 06 表彰おめでとうございます

林業ひろば

- 07 森川海人っフェス！を開催しました
- 08 地域おこし協力隊X自伐型林家を目指す

普及だより・林試だより

- 10 アラゲキクラゲ栽培講習会を開催しました
- 11 労働安全衛生研修でリスクアセスメントを実践
- 12 林業試験場の研究内容の紹介

豊かな自然を未来へ つなぐ森川海人っ 協定締結式を開催 しました



(左からNPO 法人みんなの森プロジェクト 吉村剛理事長、山口祥義佐賀県知事、佐賀県有明海漁業協同組合 西久保敏代表理事組合長、縫ノ池湧水会 赤坂宗昭事務局長)

令和2年9月25日(金)に佐賀県立21世紀県民の森内のカフェ&レストラン「オー・ポー・デュラック」において「豊かな自然を未来へつなぐ森川海人っ協定締結式」を開催しました。

この協定は佐賀県と佐賀県有明海漁業協同組合によるもので、宝の海を守り、「森川海はひとつ」という森川海人っプロジェクトの理念を広げ、豊かな自然を未来へつなぐ活動に資することを目的としています。

主な内容としては、佐賀県が21世紀県民の森の一部を「漁協の山」として提供し、佐賀県有明海漁業協同組合に令和2年から令和15年までの14年間にわたって下刈りや植林等の森づくり活動を行っていただくことで、豊かな自然を未来へつなげていくというものです。また、漁協の山では子どもたちが山の中を探検したり、森について学んだりする場所としても活用されることになっており、次世代を担う子どもたちの自然への関心を高め、環境保全への意識の醸成にもつながる取り組みとなっています。



(協定書への署名の様子)

協定締結式では山口祥義(よしのり)佐賀県知事と西久保敏(さとし)佐賀県有明海漁業協同組合代表理事組合長の両名による協定書への署名が行われたのち、それぞれから挨拶がありました。

山口知事は「素晴らしい取り組みで、この取り組みが漁協の方々によって成し遂げられたことを大変うれしく思います。こういう取り組みを森川海人っプロジェクトを通して、世界に発信していきたい。」と協定締結の喜びを述べられ、西久保代表理事組合長は「近年の豪雨災害で森川海の管理の重要性を感じ、漁協として何かできないか模索していました。今後県民の皆様や行政の力を借りながら、宝の海である有明海を守っていき、子どもや孫たちといった次の世代に引き継いでいきたい。」と今後の取り組みへの決意を述べられました。



(漁協の山パネル展示)

また、山口知事は挨拶の中で「山は広くあるので、漁協の山の協定締結を第1号として、第2第3の協定を締結し、この取り組みをどんどん広げていきたいという野望を持っています。」とも述べられており、県ではこの漁協の山をきっかけとして、企業や団体を主体とした森づくりの強化に取り組んでいくこととしています。

今後この取り組みを広げていくことで多くの方に環境保全への理解を深めていただき、県民の皆さんの力で佐賀の自然が守られていくことを期待しています。

(森林整備課 森川海人っプロジェクト推進担当

大本 雅智)

治山・林道 コンクールを 開催しました



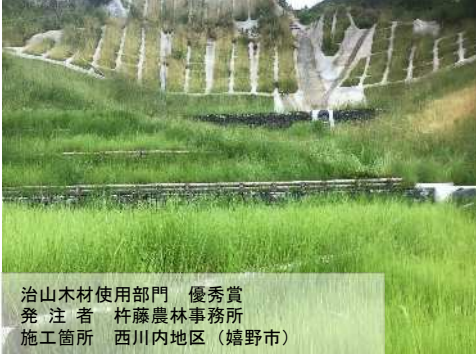
治山工事部門 最優秀賞（知事賞）
施工者 日本建設技術株式会社
施工箇所 鍋倉地区（伊万里市）



林道工事部門 最優秀賞（知事賞）
施工者 株式会社有田建設
施工箇所 烏帽子岳線3工区（伊万里市）



林道維持管理部門 最優秀賞（知事賞）
管理者 白石町
路線名 深浦渡平線



治山木材使用部門 優秀賞
発注者 杵藤農林事務所
施工箇所 西川内地区（嬉野市）



林道木材使用工事部門 優秀賞
発注者 伊万里農林事務所
施工箇所 二里・下分線2工区（伊万里市）

佐賀県治山林道協会では、治山工事や林道工事における施工技術の向上、木材利用の推進、林道の適切な維持管理を推進することを目的として、毎年、本コンクールを開催されています。コンクールは5部門で、昨年度に完成した工事を対象として、農林事務所の1次審査を経て推薦された12件を対象に2次審査を実施し、受賞者を決定しました。なお、それぞれの部門で最優秀賞に選定された場合は、全国コンクールに推薦されています。

1 治山工事部門（4件）

最優秀賞 日本建設技術株式会社

施工者	工事名	施工箇所	主な工種
岡本建設株式会社	大野地区 災害関連緊急治山事業工事	佐賀市 富士町	谷止工 2個
株式会社富士建	野口地区 復旧治山事業工事	唐津市 厳木町	落石防護柵工 68.0m 岩接着工 5,900㎡
日本建設技術株式会社	鍋倉地区 災害関連緊急治山事業工事	伊万里市 東山代町	簡易法砕工 3,767㎡ 暗渠工 50.0m
中野建設株式会社	西川内地区 災害関連緊急治山事業工事	嬉野市 嬉野町	のり切工 420㎡ 土留工(2個) 40.0m 簡易法砕工 333.9㎡

山腹勾配が急峻で、ロッククライミングマシンによる掘削工法を採用されていましたが、出来ばえ及び労働災害防止に対する体制等が特に優れていたことが高く評価されました。

2 治山木材使用工事部門（1件）

優秀賞 杵藤農林事務所発注

発注者	工事名	施工箇所	主な工種
杵藤農林事務所	西川内地区 災害関連緊急治山事業工事	嬉野市 嬉野町	丸太筋工 72.5m 丸太階段工 20段 (木材使用量 3.6㎡)

3 林道維持管理部門（4件）

最優秀賞 林道深浦渡平線 白石町管理

管理者	路線名	審査対象延長	幅員
佐賀市	佐賀北部線	2,828m	5.0m
吉野ヶ里町	佐賀東部線	4,723m	5.0m
伊万里市	大川眉山線	8,461m	5.0m
白石町	深浦渡平線	4,675m	4.0~5.0m

毎年定期的に路肩の草刈りや路面及び側溝の清掃等を委託されるとともに、沿線の約400本の桜が咲く時期には、路面清掃車による清掃が行われるなど、森林レクリエーションを楽しむ訪問者にも配慮した維持管理が行われていたことが高く評価されました。

4 林道工事部門（2件）

最優秀賞 株式会社有田建設

施工者	路線・工事名	施工箇所	工事内容
成和建设株式会社	あせび線 林業専用道整備事業工事	唐津市 厳木町	新設 72m (全幅3.5m)
有田建設株式会社	烏帽子岳線(3工区) 道整備交付金事業工事	伊万里市 東山代町	新設 200m (全幅4.0m)

切土勾配等の変更や湧水対策など施工内容の変化に的確に対応しながら適切に工程管理をされており、全体的な仕上がりが優れ、出来形、施工管理全体が優れていたことが高く評価されました。

5 林道木材使用工事部門（1件）

優秀賞 伊万里農林事務所発注

発注者	工事名	施工箇所	主な工種
伊万里農林事務所	二里・下分線 道整備交付金事業工事	伊万里市 東山代町	木製バネル伏工 136.6m 丸太伏工 1.0m (木材使用量 14.5㎡)

今回のコンクールで審査した工事等は、他の工事等の模範となるものでした。今後も、当コンクールを通じ、治山・林道工事の関係者の技術向上、県産木材の利用推進、さらには、林道の適切な維持管理が図られることを期待しています。（森林整備課 武田経孝）



搬出間伐の経費 への嵩上げ支援 (新型コロナ対策)

搬出間伐支援事業

森林を適切に整備していくためには、特に人工林においては、植栽した木を間引きする「間伐」を行うことが必要です。この間伐によって、森林内に日光が差し込み木の幹が太くなり、下草が生え、多様な森林が生育していきます。また、間伐した木材を販売することによって、森林所有者の収入源になっています。

このような中、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により、経済活動全体の停滞に伴い、住宅建築の需要が戻らず、木材価格は下落したまま回復しない状況が続いています。

木材価格の下落によって、搬出間伐の採算が取れなくなるため、森林所有者は搬出間伐を林業事業者（森林組合等）へ委託できなくなります。そうなると、計画的な森林整備が進まないことに加え、作業を受託する林業事業者の経営継続にも影響が生じています。

佐賀県森林組合連合会が運営する木材市場では、木材が集まらないため、7月後半から4回連続して市場開催を中止しました。その後、9月に開催した市場では、取扱量が1/5に激減しました。現在も（10月中

旬現在）、木材の集まる量が少ないため、市場開催が見通せない状態です。（森林組合連合会：古賀課長）

佐賀県森林組合連合会と県内森林組合の組合長が、山口知事を訪問（8月21日）して、搬出間伐に対する支援強化を要望されました。山口知事は、「県として、山を大切にしており、しっかり対応したい」と、回答されました。

このような状態を受けて、県では、森林の荒廃を防ぎ、森林の有する公益的機能を将来にわたって維持するとともに、森林を守り・育てる林業事業者の雇用を確保するため、私有林（県民が所有する森林）における搬出間伐の支援強化を行い、計画的な森林整備を進めています。

最後に、新型コロナウイルスによって、私たちの身の回りの生活は強く影響を受け、また、多くの業界においても影響を受けています。これからは、一人ひとりの行動によって、新型コロナウイルス感染拡大が、一日でも早く終息することを願っています。

（林業課造林間伐担当 石田秀明）

【搬出間伐の経費に対する造林補助金の嵩上げ支援】

- ・補助率 93.5%（国 51% 県 42.5%（うち今回嵩上げ 25.5%：木材価格の下落額相当））
- ・実施主体 造林事業において搬出間伐を実施した者。
- ・対象経費 私有林における搬出間伐にかかる経費。 ※県有林及び市町有林は除く
- ・申請方法 従来どおり造林事業を申請すると、当該補助率になる。
- ・事業期間 令和2年度（第3期申請～第4期申請） 対象面積 約200ha

浜玉町緑の少年団、 全国緑の少年団活動発表大会で全国上位5団 体に選ばれました。



▲ヒマワリの種を風船に付けたバルーンリリース



▲よかウッドで表彰伝達式



▲バルーンリリース等を彫り込んだ木製賞状枠



▲蛍等の生息を復活させるための清掃活動



▲虹の松原の保全活動

公益社団法人国土緑化推進機構では、国土緑化運動の一環として、緑の少年団の相互研鑽を目的に、全国の中から優れた緑の少年団を選抜し、活動発表大会を開催して表彰されています。

浜玉町緑の少年団は、昭和53年に平原小学校で結成され1年生から6年生で活動されている少年団です。浜玉町緑の少年団の主な活動は、地域の緑化運動としてヒマワリを全校生で育て、その種を保護者や地域の方々と採取しバルーンリリースしたことで全国の人達との交流が生まれたり、蛍やメダカの保全活動を地域

と一体となって取り組んだりと緑化や自然環境の保全活動に取り組まれています。

このような取組が評価され、全国約3,000団の中から最上位5団体に贈られる「みどりの奨励賞」を受賞されました。

これからも、浜玉町緑の少年団の活動が、次の世代の少年団に引き継がれながら、地域と共に緑化運動や自然環境の保全活動が益々活発になることを願っています。この度は、大変おめでとうございます。

(公益財団法人 さが緑の基金)

全国育樹活動コンクール で、松尾正登さんが農林 水産大臣賞に選ばれました。

令和2年度育樹活動コンクールで伊万里市松浦町の松尾正登さんが農林水産大臣賞を受賞されました。

松尾正登さんは、昭和28年から67年間に亘り山林種苗の生産に従事、山林種苗生産を通して県内の森林・林業の振興発展に大きく寄与し、その功績が評価され今回の受賞となりました。このことは、全国育樹祭の式典で表彰の伝達が行われる予定でしたが、コロナ禍の影響で育樹祭の開催が延期になったことから、1月15日(日)佐賀市のどん³の森で開催された



令和2年度 全国育樹活動
コンクール伝達式

「よかウッドフェスタ」の式典で池田農林水産部長から「全国育樹活動コンクール 農林水産大臣賞」の表彰状と副賞の楯が伝達されました。この度は、大変おめでとうございます。

(伊万里農林事務所 林務課普及担当 淵上 武敏)

1 はじめに

令和2年8月8日（土）に佐賀市大和町の多布施川河畔公園周辺において、「森川海人っフェス！」を開催しました。このイベントは、「森川海人っ（もりかわかいと）プロジェクト」の取組として開催するもので、県民の皆様に森川海とのふれあいや体験活動とおして、森川海が私たちの暮らしに様々な恩恵を与え、重要な役割を果たしていることへの理解を深めてもらい、森川海の保全活動などの行動促進につなげていくことを目的としています。今回は、この「森川海人っフェス！」の内容についてご紹介します。

2 森川海人っフェス！

(1) 主催者あいさつ

開会式では、山口祥義（よしのり）佐賀県知事から『森川海のそれぞれの立場からお互いにエールが送れるような取組を進めていきたい。』とあいさつがありました。また、今回のイベントに漁業関係者の方々が参加されていることを紹介され、佐賀県有明海漁業協同組合の江頭専務理事が8月29日（土）に佐賀市の東与賀海岸で開催される「有明海クリーンアップ作戦」をPRされました。



(2) 第3回森川海人っ感謝状贈呈式

森川海人っ感謝状は、森川海での保全活動等が顕著な個人又は団体へ感謝状を贈呈するもので、森川海に対する県民意識の醸成を図り、豊かな自然環境を未来へつないでいくことを目的としています。



今回は佐賀市婦人林業研究会、こだまの富士（さと）倶楽部、縫ノ池湧水会、杉町省次郎氏、笹山茂成氏に感謝状が贈呈されました。今後も引き続き、森川海での保全活動等にご活躍されることを期待します。

(3) 川の体験イベントやワークショップなど

今回のイベントでは、「川」をテーマとして嘉瀬川や多布施川を使った川流れ体験やカヤック体験、カヤックでの水上散歩など、普段の生活では経験することができない川での体験活動を楽しんでいただきました。



イベントエリアの「多布施川河畔公園」では、ステージイベントのほか、さがの木で車の工作、微生物の観察や水質実験、海の生き物のタッチプールなど、森川海のワークショップを行いました。



また、ふれあいエリアの「さが水ものがたり館」では、木で作るプランターに苗を植えよう、海のウォータードームづくり、メダカすくいなどを行い、参加者の皆様に森川海への理解を深めていただきました。



3 おわりに

今回のイベントへの参加をきっかけとして、森川海への理解が深まり、他の森川海イベントへの参加や森川海での活動が広がってほしいと思います。

（森林整備課 森川海人っプロジェクト推進担当

山浦 好孝）



林業
ひろば

地域おこし協力隊 × 自伐型林業業家を目指す



東京からUターン

「そろそろ佐賀に戻りたいな」そう思って東京から佐賀へのUターンを考えはじめました。

はじめまして。2020年2月から佐賀市の地域おこし協力隊に着任して現在、林業を修行中の信本力哉（しのもとりきや）です。32歳。佐賀市に生まれ、福岡県の家具メーカーへ就職し家具卸の営業をしていました。東京へ転勤となり直営店舗の店長などを経験し、約十年務め、今後の人生を考えたときに、佐賀に戻りたいなと思いはじめました。前職とは違う仕事にトライしたいと思っていましたが、生まれ育った佐賀だからこそできる仕事はないかと考え、佐賀の特徴を調べていました。すると佐賀の山は人工林率が日本一だということを知り、山に木があることはあたりまえだと思っていました。先人たちが丁寧に植林をされていたという事に驚きました。同時に現在の林業には多くの課題があることも知りました。

なぜ林業？

東京では休みの日には登山やキャンプをしたりと、山や川がある自然を求めていた気

がします。佐賀へのUターンを考え始め、佐賀について調べるうちに佐賀には自然がたくさんある、山の中で働いたら気持ちいいだろうなと思ひ、林業について調べるようになりました。しかし林業とはどんな作業をして、どうやって稼いでいるのか全く想像できませんでした。どうやら林業従事者も高齢になり、若者の就業も多くないとか、危険な作業が多いとか、その程度の情報でしたが、すでに林業への興味は大きくなっていました。もともと木が好きなおや家具業界にいたことも影響していたかもしれません。林業に従事する具体的なイメージが湧かないままとりあえず、Uターン希望者向けのイベントに参加しました。佐賀市のブースで林業について相談したことがきっかけで、山間部で生活しながら地元的林業に関する情報が得られるのではと思ひ、地域おこし協力隊に着任する事を決めました。

目指す林業の形

林業の中でも自伐型で個人事業としてやりたいと思っていたところ、ご縁あって佐賀市富士町で約5haの米づくりと林業を生業にされている一人親方に出会い、現在は林業の基本を

教わっています。山を整備する事で災害を防いだり、田畑を健全な状態に保つ事ができるといふ考えも教わりながら、林業の技術以外にも山間部での米作りや山の暮らしについても勉強させて頂いています。

現代の林業では丸太の価格が安く、厳しいという声を良く聞きますが、やり方次第で生業として成り立つと感じています。昔の人たちが育ててくれた木を今後どう活用していくのかを考える事が課題です。また、自伐型林業は他の仕事との組み合わせもしやすいため、林業&〇〇の部分を考え、稼げる林業を実現したいです。また地域おこし協力隊の最大3年という任期が終了したときに、地元民ではない自分が施業できる山を確保できるかという事も個人的な課題です。

地域活性×林業家育成

若手の林業従事者を増やすためには人材育成が非常に重要ですが、技術、知識を集中的に学ぶ場は限られています。私は幸いにも自伐型林業家（一人親方）に出会い、技術だけでなく考え方や経営的な部分も見せて頂いています。

他県でも好例があるように、地域おこし協力隊
×自伐型林業家の組み合わせは若手林業家育成



の良い形だと思えます。地域おこし協力隊の任期3年の間に「うちの山を整備してくれないか？」という声を頂けるように地域の方との出会いも大事にしたいです。また、すでに県や市など行政との繋がりもあり、佐賀市森林整備課の方々とコミュニケーションを取らせて頂き、日々ご協力頂いています。市や県主催の林業に関する研修にも参加させて頂いています。

林業従事者が増えることで佐賀の山林、豊かな自然が健全に守られて、山間部の活性化に繋がれば嬉しいです。

県主催 森林作業道作設研修に参加

崩れにくい森林作業道づくりのための知識を学ぶ機会を頂き、繰り返しバックホーに乗り、法面の早期緑化の方法を学びました。

他の参加者の操作技術、段取りの良さも勉強になりました。





アラゲキクラゲ栽培講習会を開催しました

令和2年7月17日（金曜日）に、武雄市山内町において、武雄杵島地区林業協議会主催による特用林産物講習会を開催しました。町内には、「黒髪の里きのご研究会」という研究会があり、平成21年から活動を行っています。この研究会は主にきのこの出荷・販売を同町にある「道の駅黒髪の里」及び自然食レストラン「なな菜」への販売を行っており、夏場にアラゲキクラゲ、冬場にムキタケを生産しています。

今回は、夏場の気温を利用した簡易ハウスで栽培が可能で、夏場の短期収入源として活用でき、国内生産量及び需要が増大している、アラゲキクラゲ栽培について講習会を行いました。講習会は【座学】【生産現場視察】【販売所視察】の流れで実施しました。

【座学】はアラゲキクラゲの栽培方法や注意点についての説明や、生産規模によつての経営試算表を紹介し、参加者に具体的なイメージを持ちやすくしました。

【生産現場視察】は「黒髪の里きのご研究会」に加入している4人の生産現場を訪れました。生産現場は太陽光パネルの下や元みかん保管庫、ビニールハウスなどそれぞれ特色があり、生産者は自分の生産現場に合わせて、散水のタイミングや菌床への切れ込みの数などを変えるなど工夫を凝らされていました。

【販売所視察】は、実際に出荷している道の駅黒髪の里を訪問し、池田駅長に話を聞きました。話の中で特に印象的だったのが、道の駅の横にある自然食レストラン「なな菜」では、提供する料理に道の駅で販売されている食材を一部活用しており、安定した販売のために非常に効率的だと感じました。



生産現場視察状況



販売所視察状況

今回の講習会を開催して、参加者の皆さんが積極的に生産者の方々と意見交換会がされており、とても有意義な講習会になったと感じました。

最後に、講習会を実施した後に、講習会に参加した大町職員紹介により、アラゲキクラゲ栽培に興味を持った6名の方々に、現地研修会を実施することがありました。早速講習会の効果があり、大変うれしく思いました。今後とも管内の他地域でも産地化できるように、引き続き普及活動に努めていきたいと思います。

（杵藤農林事務所 林務課普及担当 内山和彦）

林業の現場は、常に労働災害のリスクと隣合わせであると言われています。4月に森林組合で間伐作業中に労働災害の事故が発生しました。事故は、玉切り作業中に切った材が滑落したことによるもので、作業員の左足に衝突し損傷するに至りました。森林組合は、事故後直ちに災害再発防止対策書を農林事務所に提出し、農林事務所に対して労働安全衛生についての指導の要請がなされました。農林事務所は、森林組合からの要請を受けて事故現場の検証と併せて、労働現場の安全衛生を確保するためのリスクアセスメント研修を5月～6月にかけて3回実施しました。

リスクアセスメントとは、「作業がどれくらい危険か（リスク）をランク付けして事前に評価（アセスメント）する」ことを言います。リスクとは、労働安全分野では、「労働災害の発生する可能性の度合」と「労働災害の重篤度」とを組み合わせたものと定義されています。

リスクアセスメントの手順は、①危険要因の洗い出し ②リスクの見積もり ③リスクの評価 ④リスク低減対策の検討と実施 ⑤内容の記録等により行います。

今回の研修では、森林組合職員全員に参加してもらい、4月に起きた労働災害の事故について検証を行い、災害再発防止対策にまとめ上げることを目的としたものです。

第1日目は、事故が発生した現場で危険要因の洗い出し作業を行いました。

第2日目は、室内で洗い出した危険要因（リスク）を見積もり、評価する作業を行いました。

第3日目は、室内でリスク低減対策の検討を行い、リスクアセスメント報告書をまとめあげました。



危険因子の洗い出し



リスクの見積もり評価



リスクアセスメント報告

リスクアセスメントは、過去に組合内部で講義形式の話聞く研修はありましたが、実際の労働災害現場をモデルケースとして職員がリスク評価の手続きを全て実践したのは、今回が初めてであり、グループワークを取り入れた実践的な研修となりました。グループワークを通して、労働災害について調べ上げ、リスクの評価分析を行い、対策をまとめ上げる一連の作業を行ったことで、森林組合の中で職員の労働安全衛生に対する強い認識と労働安全衛生活動への参加意識の必要性が高まったことを感じました。

その後、9月に、森林組合の研修室において、林業・木材製造業労働災害防止協会 安全管理士による「リスクアセスメント」研修が行われ、安全管理士からこれまでの3回に亘ってグループワークで取りまとめた「リスクアセスメント報告書」を評価してもらいました。

安全管理士は、「リスクを低減してもリスクは残っていることを意識すること。リスクアセスメントは、組合のルールを確認する作業であり、リスク対策の考えを繰り返し実践することで安全行動が定着する。」との言葉で、職員全員の労働安全衛生活動への参加と日々の仕事におけるリスクに対する意識付けの重要性を述べておられました。

森林組合において、安心安全で働ける職場を実現できるようこれからも労働安全衛生への普及指導に取り組んでいきたいとの思いを強くしたところです。

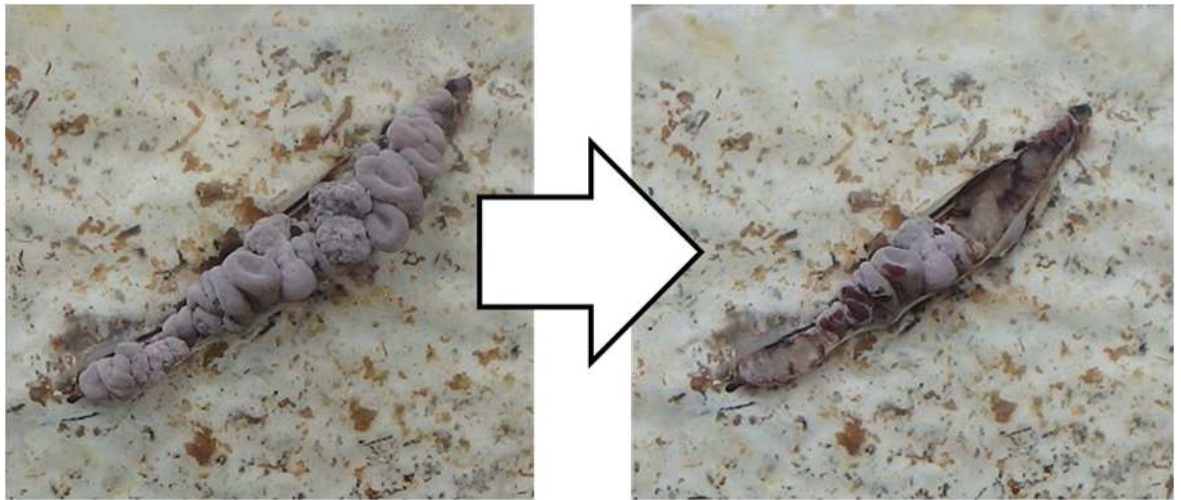
(伊万里農林事務所 林務課 淵上武俊)

林業試験場の研究内容の紹介



新たな特用林産物に関する研究（アラゲキクラゲ）

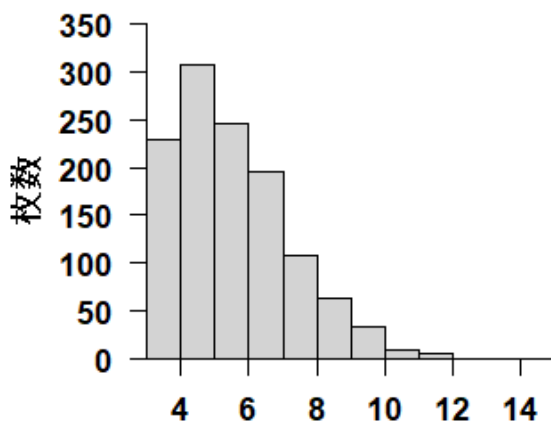
平成 25 年度から令和元年度にかけて、佐賀県におけるアラゲキクラゲの栽培方法について検討しました。今回は、菌床シイタケの栽培方法と同様に芽を間引くことで、子実体（キノコ）の大きさを調整できないか検討した試験をご紹介します。アラゲキクラゲの発生初期に、芽を 3 割程度残す様にしてカッターで間引きました。そして、収穫時に子実体の長径と枚数を計測しました。



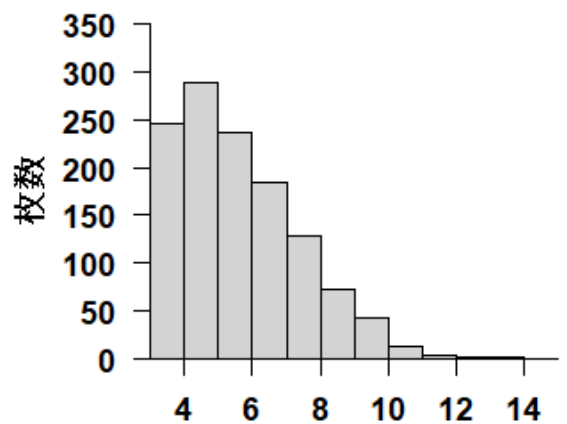
左：間引く前の芽

右：間引いた後の芽

対照区



摘芽区



長径(cm)

長径(cm)

試験結果：子実体の長径のヒストグラム（各試験区 5 菌床の合計）

小さい子実体が減って大きい子実体が増える事を期待していましたが、長径毎の枚数の構成はほとんど同じ結果となりました。アラゲキクラゲはシイタケとは違って芽を間引いても、子実体の大きさへの影響は少ないのかもしれませんが。（林業試験場 研究開発担当 多良勇太）

Follow us!
Facebook公式ページはこちら!
<http://www.facebook.com/saganomori>



さかのよか木を応援する「よかウッド」
YOKAWOOD
佐賀県林業試験場・佐賀県林業改良普及協会
<http://www.yoka-wood.jp>



編集・発行
令和 3 年 1 月 29 日発行
〒840-0212 佐賀市大和町大字池上 3408 番地
佐賀県林業試験場・佐賀県林業改良普及協会
TEL:0952-62-0054

※この冊子は、「佐賀の森の木になる紙」を使用しています。

